



## 狂犬病について

**狂犬病は世界中で年間5万人以上が死亡する人獣共通感染症です。発症するとほぼ100%死亡します。**

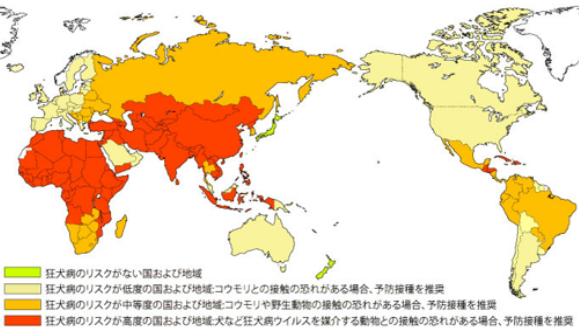
ウイルスは感染動物の唾液に含まれます。感染動物に咬まれたり、傷口、目や口の粘膜をなめられたりすることで神経系の細胞に感染します。動物は前足をなめるので、ウイルスの付いたツメで引っかかれても感染する可能性があります。

海外渡航の際は、特に注意が必要です。滞在中におやみに動物に手を出さないようにしましょう。

**万が一、海外で動物に咬まれた場合には・・・**

- ①すぐに傷口を石けんと水でよく洗いましょう。
- ②現地医療機関を受診し、傷の手当てと狂犬病のワクチン接種を受けましょう。
- ③帰国時に検疫所(健康相談室)に申し出ましょう。

狂犬病のリスクのある国



2013 WHO International travel and healthをもとに作成

**狂犬病から犬と人を守るため、飼い犬には毎年1回の狂犬病予防注射を必ず受けさせましょう!**

現在、日本国内には狂犬病の発生はありませんが、近隣諸国では狂犬病がまん延しており、日本への侵入リスクは皆無ではありません。犬を飼われている方は、飼い主の義務として、犬の登録と年1回の狂犬病予防注射を必ず受けさせてください。



詳しくは熊本市HP「令和8年度(2026年度)狂犬病予防集合注射のお知らせ」

定点種別	疾患名	状況	13週(3/23~3/29)		14週(3/30~4/5)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	-	115	4.79	79	3.29
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	/	18	0.75	8	0.33
	急性呼吸器感染症(ARI)	/	1235	51.46	993	41.38
小児科	RSウイルス感染症	/	5	0.33	1	0.07
	咽頭結膜熱(プール熱)	-	9	0.60	3	0.20
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	69	4.60	57	3.80
	感染性胃腸炎	-	85	5.67	53	3.53
	水痘(みずぼうそう)	-	4	0.27	3	0.20
	手足口病	-	2	0.13	4	0.27
	伝染性紅斑(りんご病)	-	2	0.13	2	0.13
	突発性発しん	/	6	0.40	8	0.53
	ヘルパンギーナ	-	0	0.00	0	0.00
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	-	1	0.07	0	0.00	
眼科	急性出血性結膜炎	-	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	-	6	1.20	4	0.80
基幹	細菌性髄膜炎	/	0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎	/	1	0.20	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎	/	4	0.80	0	0.00
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	/	0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	/	1	0.20	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。  
○:警報レベル △:注意報レベル -:警報・注意報レベルなし